

第3回献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査 （結果速報、概要）

- 令和4年度は、夏の感染拡大（いわゆる第7波）、秋の感染拡大（いわゆる第8波）等を踏まえ、計2回（令和4年11月及び令和5年2月）実施した。献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査において、日本全体の結果は、第1回が28.6%（※1）、第2回が42.0%（※1）であった。
- 国民の抗体保有割合は、今後の感染動向の予測や対策等を検討する際に極めて有用なデータであり、新型コロナウイルス感染症にかかる感染症法上の位置づけ変更後における重層的な流行状況の把握を目的とした、直近の抗体保有状況について、日本赤十字社の協力のもと、第3回目の当該調査を実施した。
- この結果、令和5年5月時点の日本全体の抗体保有割合は、42.8%（速報値）であった。

第3回献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査

調査の目的	新型コロナウイルス感染症にかかる感染症法上の位置づけ変更後における重層的な流行状況の把握
実施主体	厚生労働省（日本赤十字社による協力のもと実施）
調査時期	令和5年5月17日～31日
対象者	調査期間中に日本赤十字社の献血ルーム等を訪れた献血者（※2）18,048名（各都道府県384名）
対象地域	全都道府県
測定項目	抗N抗体
統計分析	日本全体及び都道府県別の抗体保有割合と95%信頼区間（CI）（※3）の推定（バイアスの補正なし）
測定結果 （速報値）	全体：42.8%（95%CI: 42.0 - 43.5%）（※4） （都道府県別等については別紙）

（※1）都道府県、性別、年齢階級にてウェイトバックした値

（※2）全血献血又は成分献血の基準を満たし、以下のいずれにも該当しない者を対象とする。

- ・新型コロナウイルス感染症と診断された又は新型コロナウイルス検査で陽性になったことがあり、症状消失後（無症状の場合は陽性となった検査の検体採取日から）4週間以内の方
- ・発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含む新型コロナウイルス感染症が疑われる症状や、味覚・嗅覚の違和感を自覚する方で、症状出現日から2週間以内及び症状消失から3日以内の方
- ・新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に該当し、最終接触日から2週間以内の方

（※3）信頼区間はBinomial exact CIで構成

（※4）結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・**献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・迅速に各都道府県の抗体保有割合を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布等の結果に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有割合とは異なる可能性**がある点

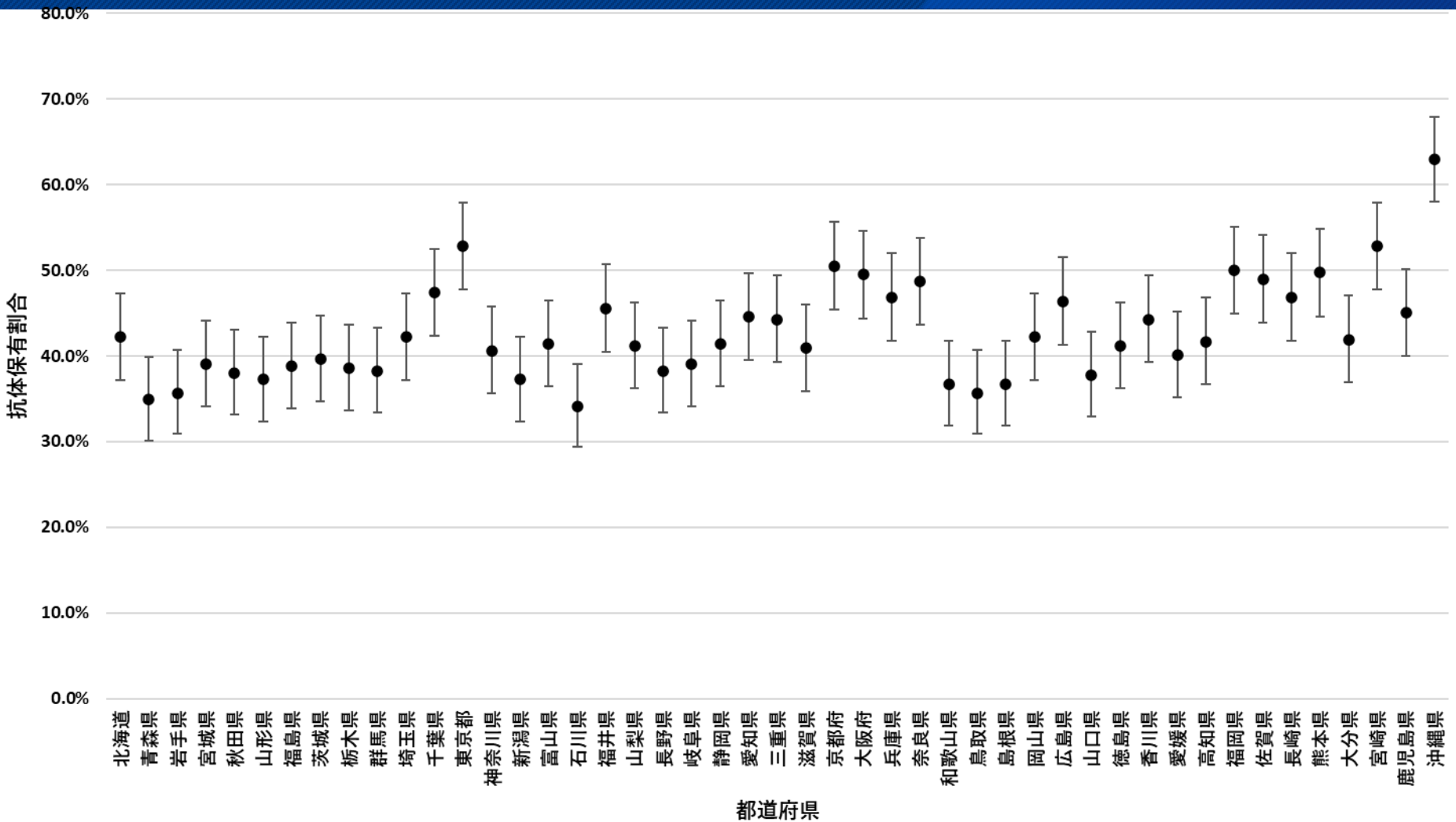
第3回献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査 (結果速報、都道府県別)

都道府県名	抗体保有割合 (95%CI)	都道府県名	抗体保有割合 (95%CI)	都道府県名	抗体保有割合 (95%CI)
北海道	42.2% (37.2 - 47.3%)	石川県	34.1% (29.4 - 39.1%)	岡山県	42.2% (37.2 - 47.3%)
青森県	34.9% (30.1 - 39.9%)	福井県	45.6% (40.5 - 50.7%)	広島県	46.4% (41.3 - 51.5%)
岩手県	35.7% (30.9 - 40.7%)	山梨県	41.1% (36.2 - 46.3%)	山口県	37.8% (32.9 - 42.8%)
宮城県	39.1% (34.2 - 44.1%)	長野県	38.3% (33.4 - 43.3%)	徳島県	41.1% (36.2 - 46.3%)
秋田県	38.0% (33.1 - 43.1%)	岐阜県	39.1% (34.2 - 44.1%)	香川県	44.3% (39.2 - 49.4%)
山形県	37.2% (32.4 - 42.3%)	静岡県	41.4% (36.4 - 46.5%)	愛媛県	40.1% (35.2 - 45.2%)
福島県	38.8% (33.9 - 43.9%)	愛知県	44.5% (39.5 - 49.7%)	高知県	41.7% (36.7 - 46.8%)
茨城県	39.6% (34.7 - 44.7%)	三重県	44.3% (39.2 - 49.4%)	福岡県	50.0% (44.9 - 55.1%)
栃木県	38.5% (33.6 - 43.6%)	滋賀県	40.9% (35.9 - 46.0%)	佐賀県	49.0% (43.9 - 54.1%)
群馬県	38.3% (33.4 - 43.3%)	京都府	50.5% (45.4 - 55.6%)	長崎県	46.9% (41.8 - 52.0%)
埼玉県	42.2% (37.2 - 47.3%)	大阪府	49.5% (44.4 - 54.6%)	熊本県	49.7% (44.6 - 54.9%)
千葉県	47.4% (42.3 - 52.5%)	兵庫県	46.9% (41.8 - 52.0%)	大分県	41.9% (36.9 - 47.0%)
東京都	52.9% (47.7 - 57.9%)	奈良県	48.7% (43.6 - 53.8%)	宮崎県	52.9% (47.7 - 57.9%)
神奈川県	40.6% (35.7 - 45.7%)	和歌山県	36.7% (31.9 - 41.8%)	鹿児島県	45.1% (40.0 - 50.2%)
新潟県	37.2% (32.4 - 42.3%)	鳥取県	35.7% (30.9 - 40.7%)	沖縄県	63.0% (58.0 - 67.9%)
富山県	41.4% (36.4 - 46.5%)	島根県	36.7% (31.9 - 41.8%)		

(注)

- 全血献血又は成分献血の基準を満たし、以下のいずれにも該当しない者を対象とする。
 - 新型コロナウイルス感染症と診断された又は新型コロナウイルス検査で陽性になったことがあり、症状消失後（無症状の場合は陽性となった検査の検体採取日から）4週間以内の方
 - 発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含む新型コロナウイルス感染症が疑われる症状や、味覚・嗅覚の違和感を自覚する方で、症状出現日から2週間以内及び症状消失から3日以内の方
 - 新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に該当し、最終接触日から2週間以内の方
- 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。
 - 今回の都道府県別の測定結果は、各都道府県について、陽性判定された検体数を当該都道府県の全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
 - 献血の対象年齢が16～69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
 - 迅速に各都道府県の抗体保有割合を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布等の結果に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有割合とは異なる可能性**がある点
- 信頼区間はBinomial exact CIで構成

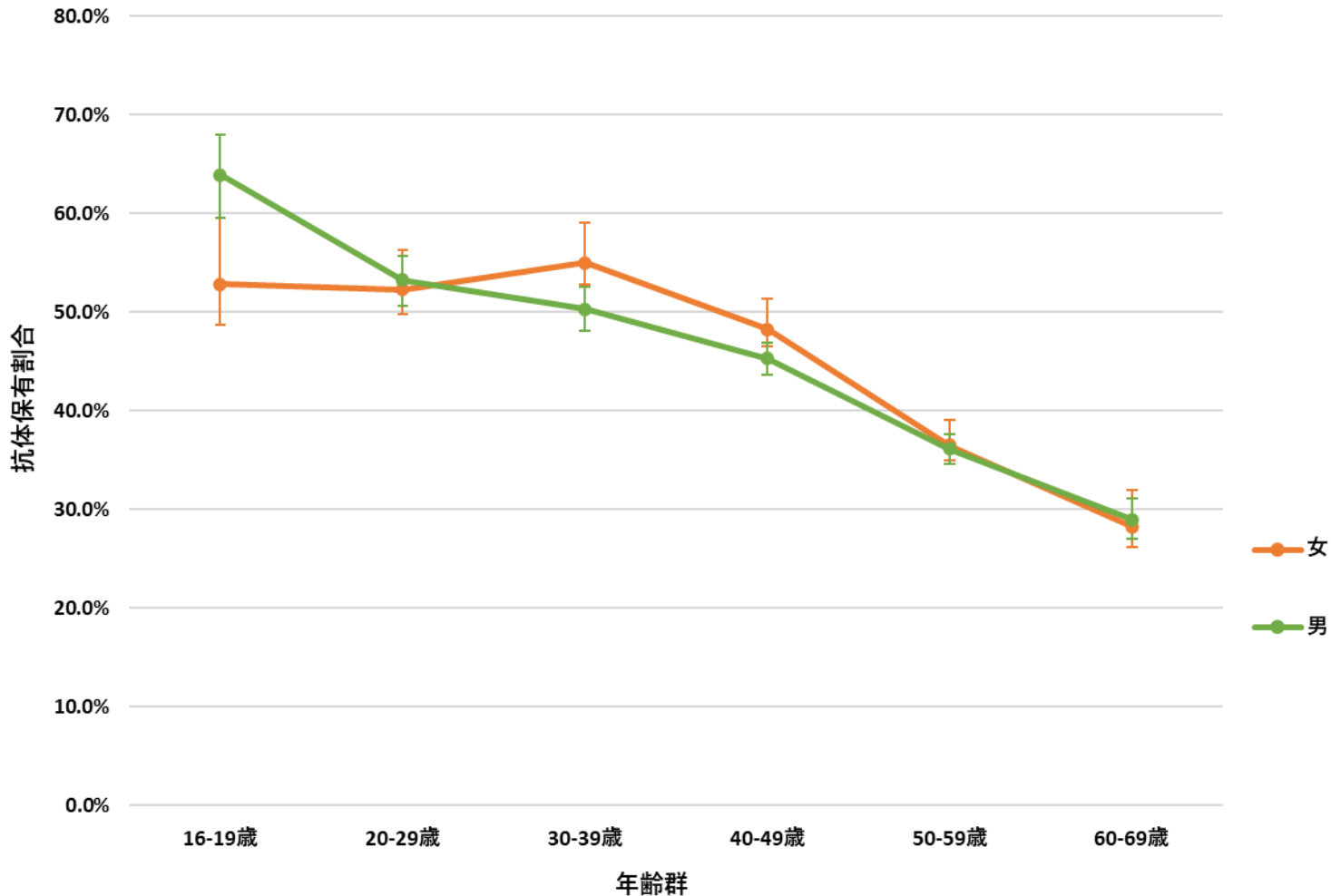
第3回献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査 (結果速報、都道府県別)



(注) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 今回の都道府県別の測定結果は、各都道府県について、陽性判定された検体数を当該都道府県の全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・ **献血の対象年齢が16~69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・ 迅速に各都道府県の抗体保有割合を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布等の結果に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有割合とは異なる可能性**がある点
- ・ 信頼区間はBinomial exact CIで構成

第3回献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査 (結果速報、性年齢群別)



(注) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 今回の性年齢群別の測定結果は、各性年齢群別について、陽性判定された検体数を当該性年齢群の全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・ **献血の対象年齢が16~69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・ 迅速に各都道府県の抗体保有割合を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、**性別や年齢分布等の結果に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有割合とは異なる可能性**がある点
- ・ 信頼区間はBinomial exact CIで構成

献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルスの抗体保有割合実態調査 (結果速報、参考表)

表1.性別

性別	抗体保有割合 (95% CI)
女	43.5% (42.0 - 45.0%)
男	42.5% (41.7 - 43.4%)

表2.年齢群別

年齢群	抗体保有割合 (95% CI)
16-19歳	60.5% (56.9 - 64.1%)
20-29歳	53.0% (50.8 - 55.1%)
30-39歳	51.4% (49.4 - 53.3%)
40-49歳	46.0% (44.5 - 47.4%)
50-59歳	36.2% (34.9 - 37.5%)
60-69歳	28.8% (27.1 - 30.6%)

表3.性年齢群別

性年齢群	抗体保有割合 (95% CI)
女-16-19歳	52.9% (46.2 - 59.5%)
女-20-29歳	52.3% (48.3 - 56.3%)
女-30-39歳	55.0% (51.9 - 59.1%)
女-40-49歳	48.2% (45.2 - 51.3%)
女-50-59歳	36.5% (33.9 - 39.1%)
女-60-69歳	28.3% (24.8 - 32.0%)
男-16-19歳	63.9% (59.6 - 68.0%)
男-20-29歳	53.2% (50.7 - 55.8%)
男-30-39歳	50.3% (48.1 - 52.5%)
男-40-49歳	45.3% (43.6 - 47.0%)
男-50-59歳	36.1% (34.7 - 37.6%)
男-60-69歳	29.0% (27.0 - 31.1%)

(注) 結果の解釈に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 今回の測定結果は、陽性判定された検体数を全検体数で割った値であり、**単純集計**にて求めたものである点
- ・ **献血の対象年齢が16~69歳**であり、70歳以上の高齢者は含まれず、小児、高齢者の陽性率の分布はこのデータからは分からない点
- ・ 迅速に各都道府県の抗体保有割合を把握を行う目的で実施しており、献血を行った者の中から系統的無作為に抽出を行ったため、速報では、**性別や年齢分布等の結果に影響を与えうる因子を補正しておらず、本来の人口単位の抗体保有割合とは異なる可能性**がある点
- ・ 信頼区間はBinomial exact CIで構成